

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>育てたい生徒像： 岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒 チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒</p> <p>目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす</p> <p>創立 122 年周年の歴史を有する本校の役割は、生徒・保護者・地域・社会の期待に応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為で未来を拓く人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール (GLHS)」と「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 確かな学力・グローバルリーダーの育成 次期学習指導要領を見据え、教育課程を軸にした「カリキュラムマネジメント」を行うことで、高い志と確かな学力を併せ持ち、チャレンジ精神に富む、豊かな未来社会を拓く『グローバルリーダー』を育成する。(1)(2)の取組で、グローバルリーダーとしてのコンピテンシー(資質・能力):英語運用力や未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」、チャレンジ精神を育成する。</p> <p>(1)生徒の持つ力を最大限に引き出す。 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業に取り組み、多面的・多角的学習評価を行うことで、未来型の確かな学力の育成をめざす。 イ 授業目標や学ぶ意義を「岸高スタンダード」として各教科で共有し、授業公開週間や教員研修等で、教科横断した学校組織としての授業改善に取り組む。 ウ 「土曜の午前は学習タイム」を徹底し、生徒が主体的に学ぶ。 エ 「岸高スーパークラス」設置による切磋琢磨ですべての生徒の持つ力を最大限に引き出す。 生徒向け授業アンケートの項目 8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目 9「知識や技能が身についた」H30 学校平均(3.15/4 点満点)を 3 年後に、3.20 以上にする。 すべての教科科目で、観点別学習状況の評価を導入し、教科特性に合わせてルーブリック評価やCan doリストなど学習の明確な指標を示す。</p> <p>(2)グローバルリーダーズハイスクール (GLHS)・スーパーサイエンスハイスクール (SSH)としての学力向上や高い志に係る内容の充実を図る。 ア グローバルリーダーの素養としての英語運用力を 4 技能統合型の英語授業の導入等により「聞く・話す・読む・書く」をバランスよく身につけさせる。 イ グローバルリーダー養成プログラム等を活用して、海外の大学生や海外の高校生とのディスカッション・プレゼンテーションを推進し、グローバルリーダーとしてのコンピテンシー(資質・能力)を育成する。 ウ 地域協働や外部連携等により、グローバルリーダーとしてのマインドセットを行い、SSHやGLHSの活動を深化し、次期SSHの準備を行う。 エ ICT機器をツールとして使い、課題研究の手法を一般教科に広める(AL型)。 「岸和田高校グローバルリーダー育成 3 か年計画チャート」に沿って、カリキュラムマネジメントの観点で、すべての学校教育活動をリンクさせて、体系的にグローバル人材を育成する。</p> <p>(3)「朝読」(読書活動)をカリキュラムマネジメントする。</p> <p>2 高い志をばぐみ、進路実現をめざす取組み 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、進学実績のみを求めるのではなく、生徒が主体的に考え、それぞれのキャリア(将来像)の実現を図れるよう、学びに向かう力・人間性を涵養する。生徒が第 1 志望を貫き「入りたい大学」合格をめざす!ようにマインドセットが行えるような進路サポート体制を構築する。</p> <p>(1)GLHS、SSH事業を活用して 3 年間を見据えたキャリア教育を実施する。 ア 興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う(生徒のハートに火をつける体験)。 イ 場の力を活用して主体的に学びに向かう力を育み、モチベーションを喚起する。 ウ 全員が課題研究に取り組む体制を構築する。</p> <p>(2)国立大学志望90%以上という生徒の進路希望の実現をサポートし、海外の大学への進学にも対応する。 ア 新大学入試に対応した進路指導部が主導する進路指導ホームルーム計画や進路指導の取組をさらに充実する。 イ 岸高手帳等の活用 低学年(1年2年)での学習習慣、時間管理能力を確立する。 1 年次より、様々な活動をポートフォリオしていく習慣の確立 ウ 岸高スーパークラス、岸高スーパー講習を円滑に運営する。 国公立大学進学者の合格者数を 3 年後に60%以上、あわせて難関大学(東大・京大・阪大・神大・旧帝大など)の受験者増をめざす。(69期生 54.4%) (生徒向け)学校教育自己診断における進路指導の満足度85%以上を維持する。(H30 91.8%) 海外大学進学者 1 名以上をめざす。</p> <p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をばぐむ取組み 主体的に参加する学校行事・部活動等の充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから一層の充実を図る。また、グローバルで幅広い視野や互いを尊重するところ、コミュニケーション力を持ち、多様な人々と協働して自ら未来を拓けるよう、豊かな感性や体力や健康を育む。</p> <p>(1)学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める。 ア 学校生活の主体的な取組みを充実する。 イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する。 ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する。</p> <p>(2)メンタルサポート体制を充実させる。 教育相談室(教育相談&支援教育)を充実し、支援の必要な生徒に合理的に配慮する。</p> <p>(3)台湾の姉妹校やドイツの高校との相互交流や協働研究で、グローバルリーダーとしてのマインドを育成する。 (生徒向け)学校教育自己診断における学校行事やクラブ活動の満足度90%以上とクラブ活動参加率90%以上を維持する。 (生徒向け)学校教育自己診断における国際(理解)教育の満足度80%以上を維持し、3 年後に90%以上をめざす。</p> <p>4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献 SSHの成果・GLHSの活動等や学校情報を地域や保護者に積極的に情報発信する。危機管理やワークライフバランスの視点を持ち、地域協働による学びを通して、社会参加・社会貢献の意識を醸成する。生徒と教職員がより安全で安心に学べる学習環境の構築をめざす。</p> <p>(1)学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。 (2)地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む。 (3)生徒と教職員が安全で安心な学習環境を充実し、災害等の危機管理を再構築する。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報提供の満足度 90%以上を維持する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導面】 ・「思考力を育てる深い学び」の実現に向け、指導教諭を中心に授業改善に取り組んだ。「授業に満足」【生徒】82%(前年度 81%)「教員は授業力向上に取り組んでいる」【保護者】84%(同 85%)「指導方法の工夫・改善に努めている」【教職員】95%(同 91%)といずれも数値が高く、取組みの効果が表れている。一方で土曜日の午前中は学習タイムとしているが、「学習時間として活用している」【生徒】が</p>	<p>第 1 回学校運営協議会 令和元年 5 月 28 日(火) 15:00~ ・新 1 年生(74 期)の状況について 入学時に民間の学力到達テストについて、過去のデータも残っているのか。過去のデータも存在し、卒業生との比較や、在学中の個人成績の移り変わりもみることができる。年度ごとの特徴も把握することもできる。 ・生徒の学習指導について、「スーパークラス」の取組みを行う一方、全体の成績の底上げにはどう</p>

府立岸和田高等学校

<p>57%（同61%）となっており、土曜日の学習活動状況を改善させる必要がある。</p> <p>【生徒指導面】 「あいさつやマナーを守る指導、モラルを守る指導をしている」【生徒】88%【保護者】88%「将来の進路や職業などについて適切な指導をしている」【生徒】94%【保護者】91%【教職員】88% と、本校の生活指導、進路指導については高い評価がある。一方で「困ったときに保健室や相談室で気軽に相談できる」【生徒】66%、「進路指導面で家庭にきめ細かく連絡をしている」【保護者】68%、「相談しやすい体制をとっている」【保護者】80% と相談体制に関する項目が他と比べて低い。教職員は「教育相談体制が整備されている」91%と評価していることと隔たりがある。もっと生徒や保護者に体制をとっていることを知らせる必要がある。</p> <p>【学校運営】（すべて教職員の自己診断結果） 「教育活動について教職員で日常的に話し合っている」88%（昨年度79%） 「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応している」88%（同84%） 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者・地域に周知している」93%（H28年度57%）と、教員間での情報共有、外への発信について高い数値が出ている。しかし、「学校行事の工夫・改善に努めている」74%「教育活動の評価をし、次年度に生かしている」70%とこの2項目が低い。働き方改革も視野に入れ、行事の内容、回数等を見直す必要がある。</p>	<p>対応しているのか。 考査の成績が芳しくなかった生徒へは補講習（サポート講習）を行い、考査内容を復習する機会をつくっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務の縮減について、具体的に検討していく必要がある。 <p>第2回学校運営協議会 令和元年10月29日（火）15:00～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学について（感想） どの授業も深い思考を促す教材、授業展開であった。 授業内で主体性のある学びが行われていた。 生徒がやる気になるような授業であった。 ・オーストラリアイマージョンプログラムについて、参加希望生徒は全員参加できるのか。 50名を超える希望の中から選抜、総合的に判断して参加生徒34名を決定。 ・教員の勤務時間について、教員の時間外勤務の状況は？ 昨年度と比較し、今年度は改善。 <p>第3回学校運営協議会 令和2年2月4日（火）15:00～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度学校経営計画について、「めざす学校像」「中期的目標」について、承認。 ・スーパー講習、スーパークラスでの生徒の様子はどうか おおむね好評。スーパークラスの生徒では授業中によく活発な議論などがされている。 ・生徒のメンタルサポート体制は 校内の担当教員と外部からのスクールカウンセラーで対応。 ・2年生全員が課題研究の発表をする機会があり、これだけの規模で発表会が行えるのはとても良いこと。生徒の主体的な学びにつながっていると思う。 ・教員の時間外勤務状況は 今年度は縮小傾向。次年度も改善できるよう取組む。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成・グローバルリーダーの育成</p>	<p>(1)生徒の持てる力を最大限引き出す ア 「主体的・対話的で深い学びの授業」と学習評価 イ 授業目標の共有、授業公開週間 ウ 「土曜の午前、学習タイム」の徹底 エ 「岸高スーパークラス」 (2)GLHS・SSHとしての学力向上や高い志 ア 4技能統合型授業英語運用力向上 イ グローバルリーダー養成プログラムの深化 ウ SSHやGLHSの活動の深化普及と次期SSHの準備 エ AL型授業・ICT活用 「思考力・判断力・表現力」育成のための主体的な研究 (1)(2)を通して体系的にグローバル人材を育成 (3) 「朝読」(読書活動)をカリキュラムマネジメントする</p>	<p>(1) ア ・アクティブラーニング(AL)の視点での授業やICT機器の授業活用した授業に全授業担当者が取り組み、CAN-DOリストや観点別評価を導入し、多面的・多角的な評価に努める(継続) イ ・「岸高学びのスタイル」を作成し、教科目標を担当者が共有し、生徒の進路実現を図る(継続) ・教科別の公開授業週間を用いて、アクティブラーニング(AL)の視点での授業やICT機器の授業活用した授業力の授業を教科の外部への公開授業として行う。また、すべての教員が公開授業を行い、公開する授業の授業案を作成するように努める。 ウ ・「千亀利セミナー」(土曜の自学自習)体験の実施(継続) ・「岸高スーパー土曜講習」の円滑実施 エ ・「岸高スーパークラス」(文系スーパー)(理系スーパー)のシラバスの整備 (2) ア・新大学入試(英語外部試験)への対応と4技能の生徒の伸長を測定のためにGTECの全員受検を1年2年全員に実施する(希望者には、英検・TOEFLも) イ・ドイツ相互交流の目的の明確化を図り、岸高独自のGLP(グローバルリーダー養成プログラム)の1つとなるよう努める ・【グローバルリーダー養成基礎】生徒全員が姉妹校(台湾)とリンガフランク交流で、多様性を理解し協働や英語運用力の重要性を体得する。 ・【グローバルリーダー養成プログラム(校内版)】1年生を中心とした参加者100人規模の夏のプログラムの導入 【グローバルリーダー養成プログラム(海外大学版)】カリフォルニア大学ロサンゼルス校実施に変更し、引き続きグローバルな視野でキャリア(将来像)を考え、英語運用力やチャレンジ精神、コミュニケーション力、プレゼンテーション力等を鍛える ウ ・SSH鳥類海外フィールドワーク(台湾の姉妹校との協働)実施 ・2年生次より、課題研究の成果を論文にする。 ・今年度のSSHの中間評価を機会に次期SSHへの準備を開始する エ ・「思考力・判断力・表現力」を育む「主体的で対話的な深い学び」を教員が主体的に取り組む。これらの力を育むような授業デザインを教員が自主的に研究する教育環境を醸成する・実践的な授業研究の教員研修を年2回行う(継続) ・「岸和田高校グローバルリーダー育成3か年計画チャート」に沿って、カリキュラムマネジメントの観点で、すべての学校教育活動をリンクさせたポンチ絵等にまとめ、各取組の関連性や目標を可視化する (3) ・朝読が「読解力」「論理的思考」「分析力」の育成や「小論文」指導等に繋がる教員各自の教科指導やHR指導の工夫を「自立・自己実現の支援」の目標に設定する。(継続)</p>	<p>(1) ア 生徒による授業評価における項目8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目9「知識や技能が身についた」の学校平均が(4点満点)3.15以上(H30は3.15) イ 学校教育自己診断における「授業力向上のための取組み」の項目の肯定的回答85%以上を維持する(H30は90.9%) ウ ・4月に1年全員に実施する ・1学期に募集選考し、9月に開始する エ4月中にシラバスを整備する (2) ア すべての1、2年を対象に12月に1回実施する イ 3月の訪独の際の生徒レポートのまとめを作成し、11月に1年生対象に報告会を行う 講座の参加満足度90%以上を維持する。 ウ ・夏季休業中に実施する ・文理学科の生徒全員に実施する エ 学校教育自己診断で「学校は研修などで指導法の改善に努めている」の肯定的意見80%以上を維持する (1)(2) すべての生徒で共有する (3) ・教職員全員が取り組む</p>	<p>(1) ア 学校平均は、3.19 () ・項目8「授業に興味・関心を持つことができた」3.15 () ・項目9「知識や技能が身についた」3.22 () イ 「授業力向上のための取組み」の項目95% () ウ ・4月に1年全員に実施した。継続させることが課題。() ・1学期に募集選考し、9月に開始、1月に終了。生徒アンケート「受講してよかった」83.3%「実力がついた」77.8% () エ シラバスを整備し、授業展開。クラスから海外研修やコンテストの応募に積極的に希望する生徒が出た。授業も主体的に学ぶ姿勢があった。() (2) ア、GTECは1、2年を対象に12月に実施、英検は1回10月に近隣中学校の希望者と共に実施した。() イ 生徒レポートのまとめを作成し、11月に報告会を実施。講座・研修の参加満足度はすべて90%以上() ウ ・7月下旬に実施し、台湾の生徒と英語で協議しながら共同研究をし、有意義な研修となった。() ・2年生全員が「文理課題研究」の成果を発表し、論文を作成した。2月に実施した課題研究最終発表は外部からの見学者も約80名が来校し、成功裏に終わった。() エ (教職員)学校は研修などで指導法の改善に努めている 95.3% () (1)(2) すべての生徒に本校の取組みを周知、共有し、生徒は校内、校外、海外での研修や発表・コンテストの機会を活用し、チャレンジ精神を養った。() (3) ・教職員全員で取り組んだ。意思統一を図り、工夫をしていきたい。()</p>

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み</p>	<p>(1) GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施する</p> <p>ア 体験的キャリア教育の体系化</p> <p>イ 場の力を活用</p> <p>ウ 課題研究の全員体制</p> <p>(2) 国公立大学志望90%の進路実現</p> <p>ア 新大学入試での進路指導</p> <p>イ 岸高手帳の活用</p> <p>ウ 岸高スーパークラス岸高スーパー講習</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生による職業講話や、大学教授等の出前講義、SSH 講演会などの機会をできるだけ多く提供し、将来について考えさせる (継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国の大学・豪州の大学・ドイツの大学や東大・京大・阪大等のキャンパスツアーを実施する (継続) 東大、京大、阪大の理系研究室、海外大学の理系研究室の見学、JAXA やカミオカンデなどへのサイエンスツアーなどの参加を奨励する (継続) <p>ウ</p> <p>ALL 文理への移行「ワーキングチーム」改め「新教育課程チーム」で引き続き、H31年度の2年次(全員320名)体制での課題研究実施に向けた校内体制を構築し、円滑な指導の実施</p> <p>(2)</p> <p>第1志望の「入りたい大学」をめざし、国公立大学に合格できるよう、生徒が学習できるように、学校として支援。1年次から主体的な学習習慣を確立し、学習時間の確保で学力を向上し、高い志で進路実現しようとする意欲的な生徒集団を育成する(継続)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ALL 文理学科並びに新大学入試での岸高の進路指導体制の骨格の明確化を図る 新大学入試での英語・外部検定への対応として1年2年生の12月に1回GTECを全員受検させる 新大学受験に対応した長期休業期間の効果的な講習を(外部講師の活用も含む)や考査ごとに学習を補完するサポート講習(指名制)を提供する 3年ゼロ学期(2年12月)を徹底し、受験生宣言やPT(東大・京大・医学部の希望者集団への個別指導)を行う(継続) 3年生対象の集中勉強会を行う(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「岸高手帳」の導入により時間管理能力を育成する。 高校での活動をポートフォリオさせる。学期ごとに振り返りの進路HRで、確実に記録を積み上げさせる <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに切磋琢磨して、志を高く持ち、自己の進路実現に向けて努力して、生徒の主体的な「学びに向かう力」が、岸和田高校全体に醸成されるよう努める。 模試等分析会に担任だけでなく、副担も参加し、分析会直後に情報の共有し、教科や学年の課題を確認し今後の対応を考える 生徒、保護者への進学説明会の充実と海外大学進学説明を実施する (継続) 模試等の分析会の活用。分析会後に進路HRを必ず設け、生徒にできなかったところや今後の学習について、振り返りや考える時間を持たせる。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の講演会等の質問項目の肯定的な生徒回答が80%以上維持 (H30は89.7%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の特色のある教育活動等の質問項目の肯定的な保護者回答が80%以上維持 (H30は94.9%) <p>ウ</p> <p>新教育課程チームと研究開発部が連携して実施。研究開発部の打ち合わせを週1回ペースで行う。</p> <p>(2)</p> <p>アイの取組の結果として</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者数が(現浪合わせて)180人以上 (H30は約180人) (保護者向け)学校教育自己診断結果における進路情報の満足度85%以上を維持 (H30は91.8%) <p>・模試等の結果を振り返る 進路HRをH31年4月から、計画的に設定する</p> <p>・毎回分析会の直後に実施する</p> <p>・海外大学進学説明会を1回以上実施する</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)の講演会等の質問項目 94% () <p>イ</p> <p>学校教育自己診断(保護者)特色のある教育活動等の質問項目 95.8% ()</p> <p>ウ</p> <p>年度当初に新教育課程チームを整え、概ね月に1回協議した。 ()</p> <p>(2)</p> <p>国公立大学合格者数が(現浪合わせて)177名と目標に達しなかった。 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(保護者)進路情報の満足度91.4% () <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間4回、模試等を実施し、その結果を振り返る教員の分析会を実施したのち進路HRを学年全体、または各クラスで行い、模試の復習を指導した。 () 教員の模試分析会の参加率を上げることが課題。() 海外大学進学説明会を1回以上実施した。今年卒業生が海外大学に進学。()
--------------------------------	---	---	---	--

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 学習とクラブ活動・学校行事の両立</p> <p>ア 学校生活の充実</p> <p>イ クラブ活動の奨励 クラブ活動を核にしたリーダー育成</p> <p>ウ 社会人としての人権意識・マナーの醸成</p> <p>(2)メンタルサポート体制を充実させる</p> <p>ア 教育相談室の(教育相談&支援教育)充実</p> <p>イ 支援の必要な様々な状況を持つ生徒への合理的配慮</p> <p>(3) 台湾の姉妹校、ドイツの高校との相互交流を活用したグローバルリーダーとしてマインドセットする</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足・文化祭・体育祭・合唱コンクール等行事への生徒の主体的な取組を支援する(継続) ・岸校グッズにより自己肯定感を高める(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動への入部を奨励する(継続) ・クラブ活動振興のため社会人講師を活用する(継続) ・外部講師を招聘したメンタルトレーニングや理学療法的な講演会をクラブ部員中心に実施し、健康を自己管理する能力を高め、高い志の下、活動において良い結果を出せるよう取り組む(継続) ・学習とクラブ活動両立の良い事例の共有やリーダー性を高めるためのリーダー研修をクラブ代表者対象に実施する(継続) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献や主権者としての社会参加意識、人権意識の涵養と生活マナーの向上(継続) ・いじめ防止やネチケツト、LGBT等、人権教育の推進のための教職員や生徒への研修を実施する(継続) ・朝の挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻を実施(継続) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室(教育相談&支援教育)の円滑な運営を行う(継続) ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる(継続) ・教育相談室が、教職員の意識・スキル向上のための研修の計画およびその実施する(継続) ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の生徒の教育的ニーズに応じて、適切な支援をする(継続) ・必要に応じて福祉や医療など外部機関と連携する(継続) ・キャリア教育(大学卒業後の就労支援に向けた配慮など)を検討する(継続) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾姉妹校との相互交流10周年に当たり、4月の歓迎会や10月の訪問時に記念セレモニー等を企画する ・姉妹校や新たなドイツとの相互交流を深化する ・ドイツとの交流をはじめ、GLP(校内版)等でのホームステイ受け入れ家庭を推進し、生徒や保護者の異文化理解を進める。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事アンケートの満足度の把握し、満足度80%以上維持(H30は、90.7%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動入部率90%以上を維持 ・講演会参加者数200名以上を維持する ・クラブ代表者対象リーダー研修を1回以上実施 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総遅刻数2,000回以下を維持。 ・社会科を中心に計画的に主権者教育実施 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室会議を各学期に2回定期会議を持ち、その他随時に対応。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談日より「オアシス」の年間5回以上の発行およびその内容の充実 ・年間1回以上の研修 ・スクールカウンセラーとの情報交換会の学期1回実施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室会議において、教育的ニーズのある生徒への支援に知恵を講じる。必要な生徒を把握することを行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念セレモニーの企画を9月までにする ・ホームステイ受入家庭を10家族以上 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事アンケートの満足度94.4%() <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動入部率92%() ・講演会参加者数約260名() ・リーダー研修を12月に実施。参加者からは好評。() <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総遅刻数年度末で2400回となる。個別対応も含め、継続した指導が必要。() ・社会科を中心に主権者教育を実施した。また、「税に関する作文コンクール」に応募し、3人が入賞。() <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議の形式を変更し、毎週行う各学年担任会と生活指導部会で情報交換を密にし、生徒の情報共有を行い、迅速に対応した() ・「オアシス」を6回発行() ・2月に新任向け研修と拡大事例検討会を開催し、年度の事案について総括し、次年度へ向けて引継ぎをした。() ・情報交換会は学期に1回ではなく、SCが来校するたびに実施し、その都度秘密保持を考慮しつつ、生徒・保護者の相談内容を担任と共有した。() <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1~2回開催される職員会議で毎回担任や教育相談主担から支援が必要な生徒に関して情報共有を行い、支援内容を検討した。() <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の歓迎会、台湾での交流セレモニーは円滑に実施され、双方とも生徒は大いに刺激を受け、また友好を温めた。 ・ホームステイ受入家庭は24家族() ドイツ生徒の受け入れを9月から11月に変更し、暑さ対策や台風の心配がなくてよかった。
--	---	--	---	---

<p>4 地域・保護者との連携と環境整備</p>	<p>(1)情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。</p> <p>(2)地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む</p> <p>(3)生徒と教職員の安全安心な学習環境</p>	<p>(1)情報発信</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校 Web ページの「SSH ブログ」「岸高アーカイブ」(科目・部活動の課題研究成果)「教育コレクション」「校長ブログ」などを通して本校の教育活動の広報を推進する (継続) 文化祭や体育祭、生徒研究発表会を保護者や地域に公開する (継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 Web ページを更新し中学生に魅力あるものにする (継続) メーリングリストによる情報発信と災害時等に安否確認を確実にできるように努める <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園との計画的なサービスラーニングを実施する (継続) 近隣の幼稚園との1年を通じた交流する(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭の内容を精選し、生徒中心の運営にシフトし、生徒が主体的に地域連携について関わる機会になるよう努める 近隣の幼稚園との防災教育・共同避難訓練を行い、近隣の住民との防災教育を通じた意見交流を行う (継続) 公開食育講座を実施する (継続) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波や地震の避難経路や場所の見直しと新しい避難訓練の導入など、防災意識の強化する 備蓄品の整備を行う ノークラブデイの励行と全庁退庁日の徹底 岸和田高校部活動方針の HP 公開と月ごとの部活動計画の作成を行う 部活動や文化祭等の行事の効率化を図る。 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> (保護者向)学校教育自己診断結果における情報共有満足度 85%以上維持 (H30 は、91.6%) (保護者向)学校教育自己診断結果における「国際交流 SSH などの特色ある教育活動」80%以上維持する (H30 は、94.9%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 Web ページの更新を1学期中に開始する 必要な連絡を分かりやすく、もれなく発信する。 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園との交流を各学期に1回、年3回以上実施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭の参加クラブ数4クラブ以上 近隣幼稚園との防災教育、共同避難訓練を2回以上 近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年3回以上実施 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい避難の方法の導入を1年生から学年進行で行う 9月までに、生徒個人の備蓄品を整備する 随時、教職員に退庁の呼びかけを続けていく 時間外勤務の月平均時間の年間(4月～2月)平均の時数の5%削減 (H30 10.9%削減) 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> (保護者)情報共有満足度 90.1% () (保護者)「国際交流 SSH などの特色ある教育活動」95,8% () <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 Web ページの写真を一部アップデート。さらなる改善を業者に依頼中 () この4年間の発信数をほぼ維持している。1月現在で190を超える。() <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園との交流を家庭科の授業で1年生全員が実施。() <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭参加クラブ数は8クラブ。() 近隣幼稚園との防災教育、共同避難訓練は1月に本校にて2回実施。() 近隣小学生、本校卒業生を招いた食育、クッキング教室を年3回実施。() <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は、南海本線より山側にある公園まで、歩いて避難する訓練を実施。() 備蓄品の整備完了。() 随時、呼びかけを続け、勤務超過時間の多い教員には個別に注意喚起をした。() 時間外勤務の月平均時間の年間(4月～12月)平均の時数の10,1%削減 ()
------------------------------	--	--	---	--